



# 芝・品川の海を語ろう 江戸前ESDしながわ塾 ミニ瓦版 第1号



東京海洋大学 江戸前ESD協議会 〒108-8477 東京都港区港南4-5-7 東京海洋大学海洋科学部

## しながわ塾が開講しました

2010年4月17日(土)、参加者27名をお迎えして、江戸前ESDしながわ塾(しながわ塾)第1回が東京海洋大学楽水会館1階大会議室にて開催されました。

始めに、塾長・河野博教授(海洋環境学科)が、東京海洋大学江戸前ESD協議会の活動について紹介し、これから体験的に見ていく東京湾の埋立て、水質、漁業の変遷の様子を図1(a)、(b)、(c)をヒントとして示し、「しながわ塾では、ただお話を聞くのではなく、みなさん一人ひとりが課題を持って『リサーチ』をしていただきたい」と参加された方々に呼びかけました。

続くスタッフの自己紹介の後、参加されたみなさんにお互いに知り合っていただくために、有馬優香さん(院・海洋管理政策学専攻1年)、北島悠さん(海洋政策文化学科4年)の進行で「アイス・ブレイク」(場を温める活動)を行いました。広重の「名所江戸百景」から7種類の江戸前の海の絵をジグソーパズルのように6つ切りにしたものをひとり1枚お持ちいただき、会場で同じ浮世絵のピースを持つ「お仲間」を探していただきました。そして浮世絵が完成した後に、浮世絵が描かれたのと同じ場所で北島さんが撮影した写真をグループで相談して選び出し、その共通点と変貌ぶりを確認しました。



最後に記入いただいた「ふりかえりシート」では、「アイス・ブレイクが面白かった」という声をいくつもいただきました。ありがとうございました。

アイス・ブレイク「お仲間探し」

### 江戸前ESDしながわ塾 第1回プログラム

- 日時：2010年4月17日(土) 13:30-16:00  
 場所：東京海洋大学楽水会館1階大会議室
- 第1部 はじめに 進行：川辺 みどり(東京海洋大学)  
 13:30 塾長挨拶 河野 博(東京海洋大学)  
 13:40 しながわ塾実行委員会 スタッフ紹介  
 13:50 アイス・ブレイク「お仲間探し」ほか  
     有馬 優香(院・海洋管理政策学専攻1年)  
     北島 悠(海洋政策文化学科4年)  
 14:20 「しながわ塾での my 課題」を語ろう  
     参加されたみなさん
- 休憩
- 第2部 はじめに  
 コーディネーター：小堀 信幸 氏(船の科学館)  
 15:10 お話「東京港の成り立ち」  
     大野 伊三男 氏(東京みなと館・館長)  
 15:40 本日のふりかえり  
 15:55 閉会の挨拶 石丸 隆(東京海洋大学)

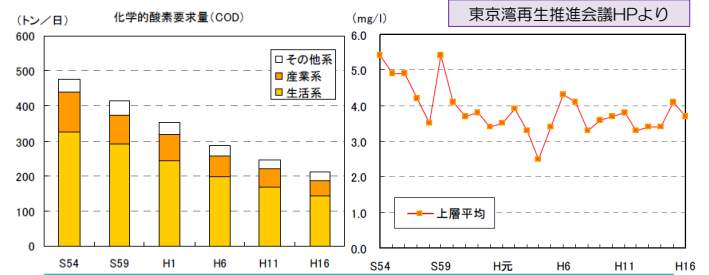


国土地理院 国土変遷アーカイブ 空中写真閲覧  
<http://archive.gsi.go.jp/airphoto/>

こうした「埋め立て」が水質にも、漁業にも影響するのは当然でしょう

詳しいことは、大野さん(今日)、今井さん(5月15日)に...

### 2) 水質の変化(死の海からの脱却とキレイな海) (a) 埋立て



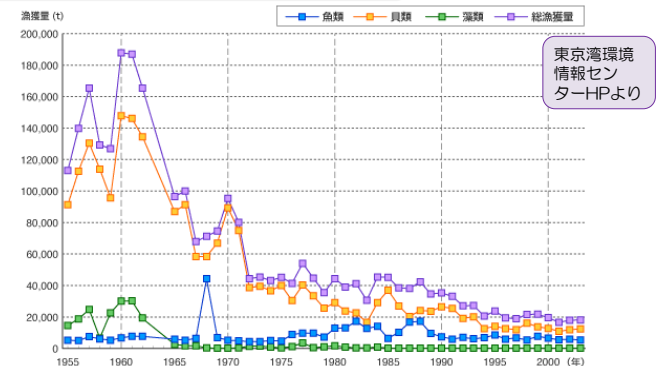
CODは化学的酸素要求量です。水中の有機物の量(ほぼ=汚染の程度)を表します。左は東京湾に入ってくるCODの元となる量、右は実際の東京湾の表層のCOD量です。

昭和54(1979)年以降、流入量は減り続けています

東京湾のCOD量は1990年代以降は横ばいですが → 何かありそう...

詳しいことは、石丸先生と神田先生(6月19日)とリサーチ

### 3) 漁業(エッ、東京湾でも漁業があるの) (b) 水質



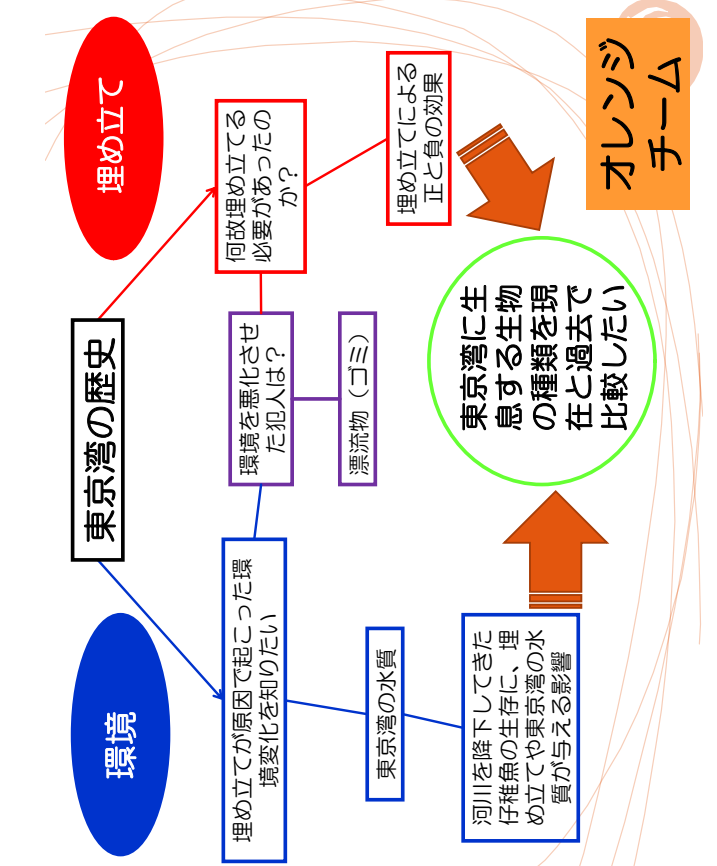
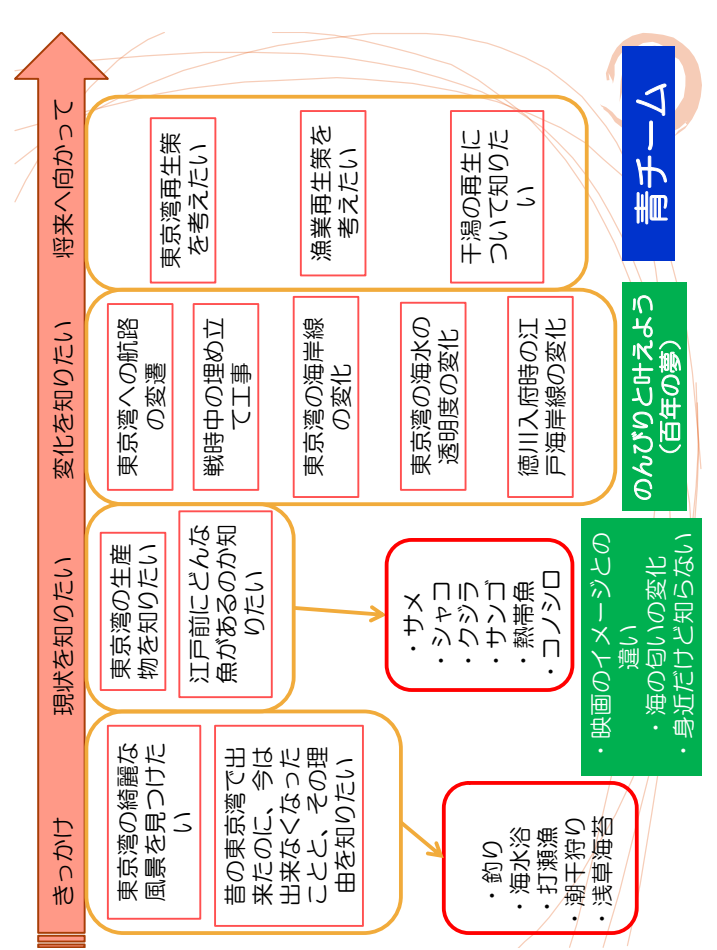
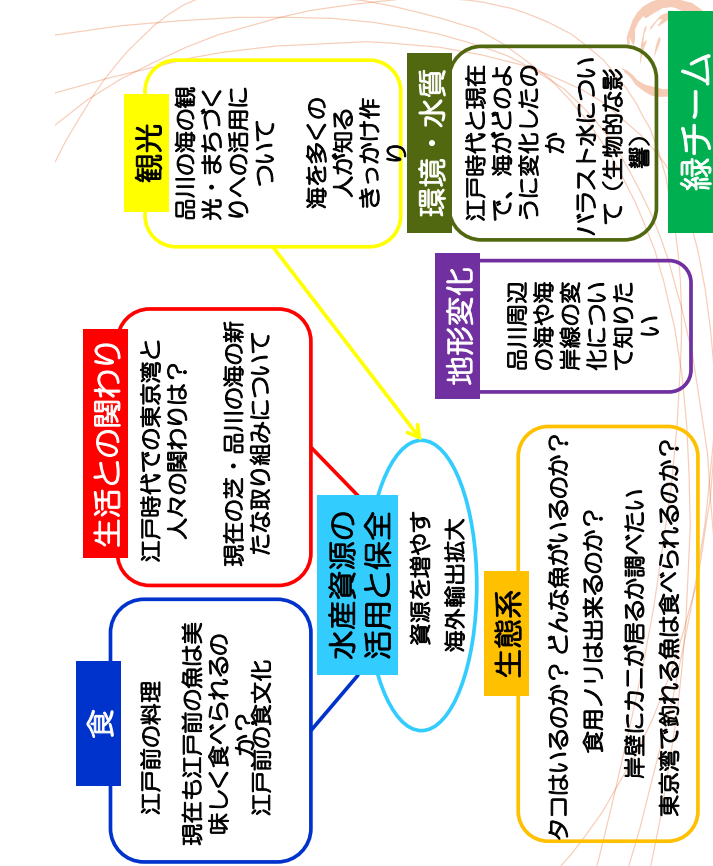
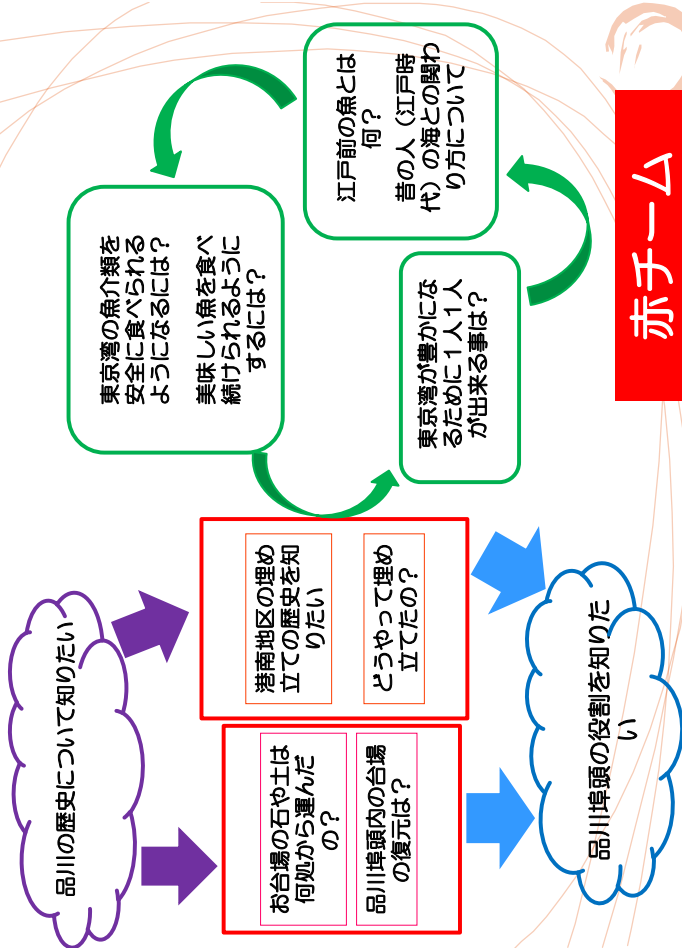
1970(昭和55)年代前半までに漁獲量は激減(とくに貝類)

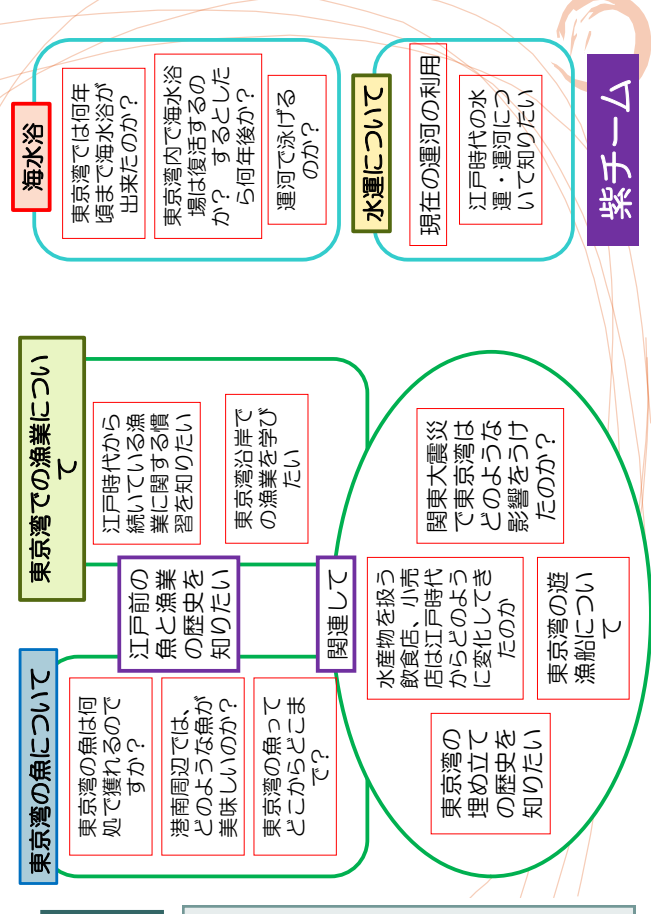
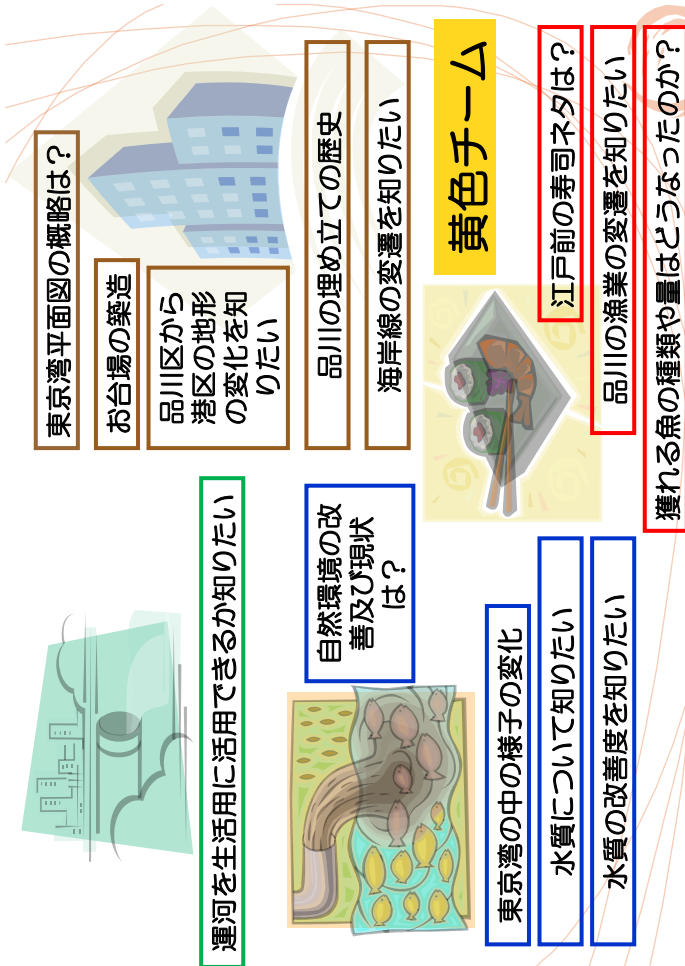
1965(昭和50)年以降、藻類はほぼ全滅

魚類は細々と、ただししっかりと漁獲をあげている...

詳しいことは、馬場先生と工藤先生(7月17日)に...

図1 河野塾長がリサーチのヒントとして示した、東京湾における(a)埋立て、(b)水質、(c)漁業の変遷の様子。





**「しながわ塾での my 課題」を語ろう**  
参加されたみなさん

アイス・ブレイクを終え、会場が温まったところで、グループごとに、一人ひとりのしながわ塾で知りたかったこと、明らかにしたいこと、すなわち、「my 課題」をポストイット紙に書き出して話し合い、それらを模造紙1枚にまとめました(左上の写真)。

グループでのまとめが完成した後、会場にいる全員でその内容を共有するために、ポスター発表形式で、会場の壁面に作成した模造紙＝ポスターを貼り、発表担当の方以外の全員が会場を巡って、他のグループでどのような話し合いが行われたのか、発表を聞きました(左下の写真)。



この7枚の図は、4月17日にみなさんが模造紙にまとめたしながわ塾でのmy課題の図を松田祐樹さんがPower Pointで整理してくれたものです。





## 大野伊三男さん（東京みなと館・館長）のお話 江戸湊から東京港そして京浜港へ

第2部では、小堀信幸さん（船の科学館）の司会で、大野伊三男さん（東京みなと館・館長）が、江戸湊から現在の京浜港にいたるまでの東京港の歴史的経過について、詳しくお話し下さいました。

遠浅の干潟が広がる水深2～4mの浅い江戸前の海が、ペリー来航、お台場構築以来、時代の要求に応じて航路浚渫と埋立てを繰り返し、首都・東京を支える物流拠点へと変貌してきた経過を詳しく説明して下さいました。お話の途中で見せていただいた、人力に多くを頼る高度経済成長期の埋立て工事の映像には、度肝を抜かれました。

お話の後、小堀さんの進行で参加者のみなさんとの質疑応答があり、「東京港には大型客船は入港できないのか」（水深が浅いため、できない）、「これ以上埋め立てる必要はあるのか」（もう埋め立てる場所がない）など、いろいろな質問が出されました。

最後に、石丸隆教授（海洋環境学科；東京海洋大学江戸前ESD協議会代表）が「昔と比べて東京湾はずいぶん変わったが、これからどういふふう自然と付き合っていけばよいかをみなさんと考えていければよいな、と思います」と挨拶し、第1回しながわ塾は幕を閉じました。



上：講演する大野伊三男さん、下左：第1部の進行をする塾長・河野博教授、下右：最後の挨拶をする石丸隆教授。



### 新たな疑問、残ったままの疑問 ～ ふりかえりシートから～

最後に記入いただいたふりかえりシートから、大野さんのお話を聞いてからの新たな疑問、残ったままの疑問を紹介します。

#### 新たな疑問

- 東京湾の再生の必要性和難しさ
- 江戸時代の埋め立て方
- 海の消失と引換に海の保全というのはどのように行われていたのか
- 海・浜から受ける喜びをどうするの、失ったまま
- なんと江戸湊、東京港の水深が浅かったか？
- 埋め立てて、海の環境がどうなったのか
- 人口も減少していく今後はもう埋立は基本的に必要ないという現行で良いのでしょうか。
- ペリー来航に応じた居留地跡はどうなっているだろう？
- 大都市を支えるため港湾の整備は必要としても自然との共生は？
- 埋立地、航路のランニングコストは？
- 今後も埋立は今回の映像と同じなのか。
- 現在の水深はどうなっているのか？ 大型の船舶の航行が可能なのか。
- 東京港の将来像は？



疑問について、第5回「芝・品川の海をふりかえる」で、みんなで考えましょう。



#### 残ったままの疑問

- 埋立による生物生息環境の変化は？
- みなと館長は埋立をゴミ処理とつよく結びつけて話されたが、埋立論はそれよりも政治的問題（首都拡張土地造成）などが大きかったと思うが。
- 魚は流れると聞きましたが、無理に追い出すのはエゴだと思います。
- 江戸前すしのネタは本当に地元で獲れているのか
- 埋立、浚渫、陸地の拡大に繋がった理由は？
- 東京港でカブトガニが取れたというのは私の聞き間違い（テレビかなにか）でしょうか？ 日本の埋立の特徴と他国のそれとの相違はなんだろう？

#### 参加されたみなさまへ

しながわ塾第1回では長時間にわたって活発にご参加くださり、ありがとうございました。

第1回の終了後に実行委員会がおこなった「ふりかえり」（反省会）では、大野さんのお話と質疑応答の時間が短かったことがもっとも残念な点として挙げられました。これは事務局の時間の見通しが甘かったためで、反省しきりです。一方、学生のアイス・ブレイクは、「手作り感があってよかった」と委員からも好評でした。

反省を活かしつつ進めたく、これから9月までの半年間のおつきあい、どうぞよろしく願いいたします。

江戸前ESDしながわ塾事務局